

## 英文翻訳ゼミ(1997.9～1999.6)

“Towards New Masculinities—Report from a Nordic conference on men and gender equality—” Nordic Council of Ministers(1995)

報告：小林 由美  
田代美江子

北欧が両性の平等に関して先進的状況にあることは周知のことである。施策的にも日本が学ぶべき点が多いといえる。私たちのゼミでは、〈ジェンダー〉の問題を一つの柱に学習を積み重ねてきている。〈ジェンダー〉問題とは女性だけの問題ではなく、男性もそこに巻き込む必要があり、両性の関係性の問題であると考えてきた私たちにとって、この“Towards New Masculinities”というタイトルは、私たちを惹きつけるものであった。北欧での男女平等の到達点や問題点への興味をかきたてられつつ、翻訳ゼミで本書に取り組むことを決定した。

1997年9月22日のゼミ合宿から、この翻訳作業はスタートし、その後、ゼミは週1回のペースで行われた。橋本教授、田代助手、院生6人の計8人で分担し、それぞれが訳してきたパートについて、皆で検討するという形式で翻訳ゼミが進められた。本書が、1995年に行なわれた会議の報告であり、入手時点で既に2年が経過していたため、何としても早く翻訳したいと考えて取り組んだが、1冊を訳し終えるまでに約2年間費やしてしまった。英語を母国語にしていない彼らによる英文の報告書である上、難解な用語が存在し、ヨーロッパ特有の比喩的表現が多い等、その国の状況や文化を理解していない者にとって、適訳を阻むような要因が多々存在していた。正直な気持ちを吐露するならば、ほんとうに大変だった。英語力、知識が充分にあったならば、もっと翻訳作業がはかどっただろうし、本書の内容をより一層楽しめただろう。

しかし無事に、その成果として、1999年6月に、教育学研究室紀要2号『新しい男性像を求めて—男性の視点からみた両性の平等に関する北欧会議報告—』として発行することができた。

本書は、1995年4月に開催された北欧5カ国による北欧閣僚評議会「北欧男性」会議の報告書である。平等実現のために男性役割についての議論を展開することを目的としたこの会議は、その参加者の70%以上が男性であるという、男性に関する、男性主体の会議であった。

本書の中では、平等社会実現のための施策がかなりの段階まで達成できている北欧で、男性たちがどのような問題を抱えているのかについて具体的に報告されていた。そこには、男性役割の積極的な面とは何か、セクシュアリティと父性の関係、男性と暴力、男性についての探求といったことに関して、男性たちが考えさせられる状況に置かれているということが示されていた。両性の平等に向けた施策の充実がある程度進行したことに伴い、結果として生じた家庭や社会での男性役割再検討の必要性。ここには北欧の男性たちの本音と様々な要求が語られていた。

また、本書の翻訳に取り組むことによって、北欧が両性の平等に関して先進的な位置にあるとはいえ、まだ男女間格差の問題が残存していることや、揺り戻しがあること、平等を追求した先に女性の徴兵制といった問題が生じるということには驚かされた。

こうした内容は、北欧の現状を学ぶことができたということだけではなく、(両性の平

等という点で) 発展途上の日本にとって、多くの示唆を与えてくれていると思う。それは、平等を目指すこれからの取り組みの中で起こってくる様々な問題とその解決の糸口であり、平等実現のイメージでもある。

翻訳本は、(訳に多くの問題は残されてい

るが) 実に興味深い内容であるし、我々の苦心の作でもあるので、是非、多くの方々に読んで頂きたいと思う。さらには、この報告書が機となり、議論が発展し、皆が生き生きと生活できる平等社会実現のための取り組みが進むことを期待したいと思う。

教育学研究室紀要〈教育とジェンダー研究〉第二号(特別号)

## 新しい男性像を求めて

—男性の視点からみた両性の平等に関する北欧会議報告—

---

# Towards New Masculinities

*- report from a nordic conference  
on men and gender equality*



---

女子栄養大学栄養学部教育学研究室

1999年6月